

2022年度 TUMUG支援事業のご案内

2022年度「TUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)」を下記の通り実施します。公募要領をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

研究支援要員

両立支援 女性リーダー育成

研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助

対象者 ◎出産・育児・介護等を行う教員・技術職員(男女) ◎国の審議会委員等の要職に就く女性教員・技術職員

ネクストステップ研究費

女性リーダー育成

新規の研究課題の遂行や、研究成果の公開に必要な研究費の支援

対象者 女性教員(准教授、講師、助教、助手)

注意事項

※プログラムによって対象と締切が異なります。 ※研究支援要員、東北大学サイエンス・エンジェルは、各部署担当係を通じての申請となります。 各部署における締切にご注意ください。その他のプログラムは、希望者が直接申請することになります。 詳細は、追って公開される要項をご確認ください。

開催報告

第1回スキルアップセミナー 「英語科学論文の書き方と英語プレゼンテーションのコツ」

今回は長年英語論文の校閲に携わり著書も数多く出版されている野口ジュディー津多江氏をお迎えし、英語科学論文を執筆する際のポイント、英語による科学発表時の準備方法などを解説していただきました。前半では文法について、後半では発音についてご講演いただきました。129名の参加がありました。

日時:2月17日(木) 13:30~15:45 開催方法:オンライン

第2回スキルアップセミナー 「学会発表や講義に役立つオンライン技術セミナー」

今回は大隅典子センター長が、オンラインの特徴を意識した資料作成やプレゼンのコツ等を解説しました。オンラインでの学会発表や講義で役立つ内容を講演しました。107名の参加がありました。

日時:2月21日(月) 13:30~15:00 開催方法:オンライン

TUMUGメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか?

役立つ情報が満載の男女共同参画推進センター(TUMUG)のメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか? 当センターでは、支援制度やイベント最新情報等をメーリングリストでいち早くお届けしています。新規登録も随時受付中です。ぜひご登録ください!

対象 ▶ 本学に所属する教職員、大学院生、学部学生(性別不問) 登録方法 ▶ 右記QRコードよりご登録ください。

新規登録随時受付中



Information

男女共同参画コラム

生殖コストの公正化 ～セックスを楽しむために～

芳賀 満

高度教養教育・学生支援機構 人間総合科学教育室 室長

メスがベニスを有しオスに挿入することにより精子と多くの栄養物質を抽出する昆虫トリカヘチャタテではオスの生殖コストが大である、と吉澤和徳氏(北大)らに言う。次世代を産み育てるエネルギーである生殖コストの観点で考えたい。自然界で同じく有性生殖を行う人間では、現在の技術では、卵子形成・月経、性交、妊娠、流産・中絶、分娩・産褥は全て女性というセックスの肉体内のみで担う。女性の内臓への長期のこれらの負荷が人間の身体的生殖コストの何割を占めるのか測り難いが、精子形成・射精で済む男性に比して、9割は超えるだろう。さらに、人間の文明界では、女性には社会的・精神的負荷も大きく伴う。異性関係の隠語で死語「ABC～」で、侵襲せず可逆的ゆえに社会的視座でも対等なのは「A」までか。社会でジェンダー格差は依然甚大、果ては痴漢、セクハラ、「ピンク・タックス」等の主な被害者も女性である。万人を救済する筈の宗教においてさえ、男が祭司で、女は血(=まさに生殖コスト)で穢れた存在。神懸かる男は能動的に社会変革を成す預言者だが、神懸かる女は受動的な予言者、巫女が魔女が狐憑き。身体的に加えてかような社会的、文明的な観点も含めると、さらに圧倒的に生殖コストは女性の片務的負担である。ならばこう言った様々な生殖コストを男性も可能な限り、様々な技術、行為、施策を駆使して、そしてこれらの男性観・女性観を創出するコンシャス、アンコンシャスな意識・認識という文明観自体をこそ変革して、負担すべきだ。授乳は永く母体のみが可能だったが、粉ミルク、今や乳児用液体ミルクも発明され、搾乳器もある。その他の保育・育児一般を担うことを性別は妨げない。まして、買い物、料理、血洗い、掃除、洗濯のどこに身体的性別が関係するのか。もとい、逆に、セックス(身体的性)の違いによる生殖コストの不均衡を、ジェンダー(社会的性)でこそコンシャスに公正化すべきだ。つまり、従来は女性負担とされている女性ジェンダー的役割を、男性こそが変わって引受け社会的に「(これまでの認識に拠る)女性化」を成して、初めて身体的・社会的を合算した総体としての生殖コストの男女間の均等化が進む。男子こそが『变成「女子」だ。男性において唯一優位である筋肉は、兵役でないならば、家事に使える。内助の功こそ男子の本懐である。生殖コストへの「男女共同参画」による「平等化」では到底足りず、正に「公正化」が必要なのである。「春みじかし 何に不滅の命ぞと ちからある乳を手にさくらせぬ」と風(与謝野)晶子は詠い放つ。倫を諭えるのは指くとして、現代でこそジェンダーをとりかへばや。生殖コストの公正化の上でこそ、身体的にも社会的・文化的にも男女の違いを楽しみたい。男女共に能動的にちからある春という原点を探り掌握して、さらには性の多様性をも包摂し、公正ゆえに多彩で豊かな未来世代の人間社会の生成と彌栄を目指したい。

スタートアップ研究費

女性リーダー育成

新規採用の女性教員に、研究スタートのための研究費を支援

対象者 新規採用の女性教員(助教以上)

お問い合わせ先

男女共同参画推進センター ☎022-217-6092 office@tumug.tohoku.ac.jp

仙台1ソソクラブ 東北大学大学院女子学生のための国際学会発表支援事業

次世代育成

国際学会発表に係る参加費用の支援

対象者 大学院女子学生

ベビーシッター利用料等補助

両立支援

研究・教育と育児の両立に必要なベビーシッター利用料等の補助

対象者 育児を行う教員、技術職員、ポストドク、博士学生等(男女)

東北大学サイエンス・エンジェル

次世代育成

出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント等の企画・実施

対象者 大学院女子学生

東北大学サイエンス・エンジェル ー女性研究者支援モデル育成ー



サイエンス・エンジェルの最新情報はコチラから!



東北大学サイエンス・エンジェル(SA)は、今年度から新たに人文・社会科学系の女子大学院生に対象を拡大しました。オンライン出張セミナーでは、中高生を対象に研究生活について伝えました。科学イベントや特別番組では、小学生を対象に科学の楽しさを伝えました。博士進学セミナーやDX協業など、SA自身のキャリア構築につながる活動も行いました。note編集部は様々な切り口で情報を発信しました。※東北大学サイエンス・エンジェルは、2022年4月から東北大学サイエンス・アンバサダーへ名称変更します。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、TUMUG WebやSNSをご覧ください。

東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion TEL. 022-217-6092 所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 Mail office@tumug.tohoku.ac.jp WEB http://tumug.tohoku.ac.jp/



TUMUG

Mar. 2022 Vol.20

「TUMUG」とは、「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡く」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。



第18回東北大学男女共同参画シンポジウムを開催

本年度は12月11日にオンラインで開催され、男性にとつての男女共同参画を効果的に推進するための今後のあり方について考える機会とすることを目指しました。

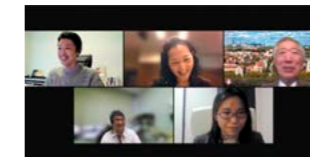
1段め左より、大野英男総長、山口一男氏、林伴子氏、大隅典子副学長 2段め左より、田名部晃平氏、神谷哲司教授、朱慧娥助教 3段め左より、梅津理恵教授、尾関規正講師、田中真美総長特別補 4段め左より、芳賀満総長特別補佐、永次史副センター長、小川真理子准教授

Headline News 第18回東北大学男女共同参画シンポジウム「男女共同参画:男性の立場から」を開催しました。

男性の立場から「男女共同参画」に関する課題を浮き彫りに。



特別講演の様子



パネルディスカッションの様子

第1部では、来賓の林伴子氏(内閣府 男女共同参画局長)からご挨拶をいただいた後、山口一男氏(シカゴ大学ラルフ・ルイス記念特別社会学教授)による「男女平等な社会の実現について:ジェンダー中立的立場からの実証的考察」と題する特別講演が行われました。第2部では、神谷哲司教授(教育学研究科)、田名部晃平氏(附属図書館農学分館職員)、朱慧娥助教(工学研究科)、山口一男氏による、「男女共同参画:男性の立場から」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。これまで女性の立場において女性の目線から、問題点や今後の課題等が語られることが多かった男女共同参画について、男性の立場から「男女共同参画」に関する課題を浮き彫りにし、男性にとつての男女共同参画を効果的に推進するための今後のあり方について考える機会とすることを目指しました。パネルディスカッションのコーディネーターは、梅津理恵教授(男女共同参画委員会委員、金属材料研究所)が務めました。当日は、231名(関係者含む)の方にご参加いただきました。

日時:12月11日(土) 13:00~16:00 開催方法:オンライン(Zoomウェビナー) 対象:学内教職員、学生、一般の方

2021年度 東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者 決定

日時: 3月3日(木) 10:00~11:15
開催方法: オンライン 対象: 学内教職員、学生、一般の方

2021年度は、4分野から各1名、合計4名の受賞が決定。



紫千代萩賞は、東北大学において優れた研究を展開する女性研究者を顕彰するもので、2017年度に創設されました。第5回となる今年度は、情報科学研究科の岡田彩准教授(人文・社会科学分野)、学際科学フロンティア研究所の郭媛元助教(理学・工学分野)、環境科学研究科の簡梅芳助教(農学・生命科学分野)、医学系研究科の前川素子准教授(医歯薬学・保健分野)の4名が受賞しました。3月3日(木)には、国際女性デー記念第5回紫千代萩賞授賞式・受賞講演会授賞式をオンラインで実施し、受賞者には表彰状ならびに副賞が授与されました。当日は、約80名(関係者含む)の方が参加しました。



所属・受賞者名	業績名	受賞コメント
情報科学研究科 岡田 彩 准教授	市民社会における寄付・ボランティア活動の研究	この度は、紫千代萩賞を頂戴し、大変光栄に存じます。このように評価いただけたことを励みに、今後も、寄付やボランティア活動をはじめとする「社会に貢献する行動」に関する社会的な研究に取り組んで参ります。
学際科学フロンティア研究所 郭 媛元 助教	脳機能解明に向けた多機能ファイバセンサの開発に関する研究	この度、栄誉ある「紫千代萩賞」を賜り、大変うれしく、光栄に存じます。誇らしい気持ちよりも、恐縮な気持ちでいっぱいです。東北大学に来て10年の間に、多くの方々とお会いし、私の研究活動を支えて頂きました。特に恩師の皆様、優秀な多くの仲間や学生の方々に恵まれ、さまざまなお支えをいただき、心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れず、研究を楽しく進めていきたい、世の中に役に立つ研究者になるように頑張っていきたいと存じます。
環境科学研究科 簡 梅芳 助教	植物・微生物による環境浄化機構の解明および有効利用の研究	紫千代萩賞に選出いただき、大変光栄に思っております。初めての教育研究職と育児を、TUMUGの両立支援があったお陰で、また、研究室の井上千弘教授をはじめ、研究室メンバーと環境科学研究所からのご支援があったため、こまめやっつけられました。心から感謝申し上げます。いつも応援してくれる家族と、「バイオから環境へ」と様々な研究アイデアと一緒に取り組んできた学生たちに、受賞の喜びを分かち合えれば幸いです。
医学系研究科 前川 素子 准教授	脂質代謝に着目した精神疾患病態メカニズムの研究	この度は、「紫千代萩賞」という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。昨年兼任したばかりで不安も多かったのですが、このようなご評価を頂けて大変励みになりました。ご支援いただいた、職場の皆様、共同研究者、学生、家族に心より感謝申し上げます。私は精神疾患の病態解明に向けた基礎研究を実施して参りましたが、今後さらにその成果を発展させ、病に苦しむ患者様のお役に立ちたいと考えております。より一層の精進を重ねて参りますので、今後ともご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2021年度前期 イベント開催報告

2021年度 TUMUG オンラインランチミーティング

日時: 第17回/10月12日(火)、第18回/11月9日(火)、第19回/12月14日(火)、第20回/1月11日(火)、第21回/3月8日(火) 各回12:00~13:00
開催方法: オンライン 対象: 本学研究者、教職員

TUMUG オンラインランチミーティングは、新型コロナウイルス感染拡大防止をきっかけにスタートしました。東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目指し、定期的に開催しています。これまでに21回開催され、毎回40名前後の方にご参加いただいています。

■ プログラム

第17回: 山田 蓮矢(歯学研究所 准教授)
伊賀 由佳(流体科学研究所 教授)

第18回: 妙木 忍(国際文化研究科 准教授)
小川 亜希子(加齢医学研究所 助教)

第19回: 多田 千佳(農学研究所 准教授)
久保 沙織(高度教育・学生支援機構 准教授)

第20回: 河村 純一(研究推進支援機構 特任教授/
URAセンター長)

第21回: 鈴木 杏奈(流体科学研究所 准教授)
李 善姬(学際科学フロンティア研究所 助教)

東北大学サイエンスキャンパス 「サイエンス・エンジェルとぴかぴか☆LED手芸」 ～ぴかぴか光るクリスマスオーナメントを作ろう～



東北大学サイエンスキャンパス主催の小学生向け科学体験イベント「サイエンス・エンジェルとぴかぴか☆LED手芸～ぴかぴか光るクリスマスオーナメントを作ろう～」がオンラインにて開催されました。9名の東北大学サイエンス・エンジェルがオンラインで電気工作についてわかりやすく伝えながら作品づくりを行う試みが行われました。全国から抽選で選ばれた21名の児童(と保護者)が参加しました。電気を通す糸と針、フェルトなどを用いて手芸感覚でLEDが光るクリスマスオーナメントを作る。それをオンラインで伝えるのは非常に難しく、奮闘するSAと子どもたちの様子が見られました。

日時: 12月4日(土) 13:30-15:30
開催方法: オンライン開催 対象: 小学4年生～小学6年生 21名

東北大学サイエンス・エンジェル監修・出演 特別番組 「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス」

東北大学サイエンス・エンジェルが、特別番組「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス～鳴子温泉でフングをさがすピーヤ～」を監修しました。身近にあるサイエンスの楽しさを伝えるべく、小島よしお氏(タレント・お笑い芸人)と野口美和アナウンサー(東北放送)とともに、鳴子を舞台に理科実験を行いました。また、自宅のキッチンでも簡単にできる実験も紹介しました。



放送日時: 3月21日(土) 13:55-14:49
放送局: tbc東北放送

女性研究者の業績 (順不同)

【受賞】

- 令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)
北川 尚美 教授(工学研究科)
- 第41回猿橋賞(女性科学者に明るい未来をの会)
田中 幹子 教授(理学研究科出身・東京工業大学生命理工学院)
- 日本火山学会研究奨励賞
無盡 真弓 助教(理学研究科)
- 2021年度 日本微生物学連盟「野本賞」
簡 梅芳 助教(環境科学研究所)
- 2021年度 第16回「ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞」
門脇 万里子 氏(工学研究科出身)
- 本学女性研究者が第18回(令和3年度)日本学術振興会賞・第18回(令和3年度)日本学士院学術奨励賞
桑村 裕美子 教授(法学研究科)
南後 恵理子 教授(多元物質科学研究所)

【就任】

- 国際学術会議(International Science Council, ISC) 次期会長
小谷 元子 日本学術会議連携会員(理事・副学長)

【その他】

- 「東北大学リサーチプロフェッサー」称号付与
栗原 和枝(未来科学技術共同研究センター 教授)
- 独創的な研究に挑戦する若手研究者「東北大学プロミネントリサーチフェロー」称号付与
常松 友美 助教(生命科学研究所)、落合 恭子 助教(医学系研究科)、吉川 貴子 助教(医学系研究科)、大坪 和香子 助教(農学研究科)
*61名のうち紫千代萩賞受賞歴を持つ下記4名もプロミネントリサーチフェローの称号を付与されました。
- 「Clarivate Analytics Highly Cited Researchers 2021」選出
本橋 ほつみ 教授(加齢医学研究所)
- 「令和3年度 理研-東北大学 科学技術ハブ共同研究プログラム」採択
共同代表者: 横山 大稀 特別研究員(理化学研究所 環境資源科学研究センター環境代謝分析研究チーム)
簡 梅芳 助教(東北大学 環境科学研究所)
- 「2021年度創発的研究支援事業」採択
鶴岡 典子 助教(工学研究科)
- IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers) Senior Member 昇格およびJapan Medal贈呈
志田原 美保 講師(工学研究科)

お知らせ

■ 「ダイバーシティを基盤とする研究力強化(2021年度版)」発刊
「ダイバーシティを基盤とする研究力強化(2021年度版)」を発刊しました。日本語版と英語版がございます。ぜひご覧ください。



PDF版は、左記QRまたは下記URLより閲覧・ダウンロード可能です。
http://tumug.tohoku.ac.jp/blog/2022/03/03/22017/

*印刷版をご希望の方は当センターまでご連絡ください。

